

上場会社名 株式会社日清製粉グループ本社

コード番号 2002

(URL <http://www.nisshin.com>)

代 表 者 役職名 取締役社長

氏 名 正田 修

問合せ先責任者 役職名 執行役員 総務本部広報グループ長

氏 名 森 裕行

上場取引所 東大

本社所在都道府県

東京都

(TEL: (03) - 5282 6650)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における : 無

認識の方法との相違の有無

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有

連結 (新規)0 社 (除外) 1 社 持分法 (新規) 1 社 (除外) 0 社

当社の連結子会社である日清飼料(株)が、昨年10月1日に会社分割により丸紅飼料(株)と経営統合し、日清丸紅飼料(株)として持分法適用関連会社となったことに伴う異動であります。

2. 平成 16年 3月期第3四半期の業績概況

(1) 経営成績(連結)の進捗状況 (平成15年4月1日 ~ 平成15年12月31日)

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売 上 高		経 常 利 益	
	百万円	%	百万円	%
16年 3月期第3四半期	334,276	-	17,664	-
15年 3月期第3四半期	-	-	-	-
(参考) 15年 3月期	402,313		19,937	

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当社関連の業界におきましては、デフレが継続するなど依然として厳しい環境下にありましたが、主力の製粉事業、食品事業をはじめ各事業とも業績は順調に推移しました。

製粉事業では、取引先とのリレーションシップ・マーケティングを一層推進し、小麦粉の拡販を図りました。健康食品事業など食品事業では、市場ニーズを的確にとらえた新製品の投入、商品力・提案力のさらなる強化を図るなど、積極的な営業活動を展開しました。ペットフード事業では、付加価値製品の販売促進に継続して取り組むなど、出荷は好調に推移しました。また、各事業において購買・生産から販売・物流・管理に至る全ての領域でのコスト削減に引き続き努めました。尚、昨年10月1日に日清飼料(株)は丸紅飼料(株)との経営統合に伴い、日清丸紅飼料(株)として当社の持分法適用関連会社となりました。以上の結果、売上高は3,342億76百万円、経常利益は176億64百万円と順調に推移しました。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

該当する事項はありません。

3. 平成 16年 3月期の連結業績予想 (平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

	売 上 高			経 常 利 益			当 期 純 利 益		
	業績予想	前年実績	前年比	業績予想	前年実績	前年比	業績予想	前年実績	前年比
通 期	百万円 434,000	百万円 402,313	百万円 + 31,687	百万円 22,200	百万円 19,937	百万円 + 2,263	百万円 11,200	百万円 10,575	百万円 + 625

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 47円 97銭 (第3四半期末の普通株式の発行済株式数(連結)により算定)

[業績予想に関する定性的情報等]

業績は当初予想通り順調に推移しており、業績予想の変更はありません。

(注)上記の予想は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値等を確約したり、保証するものではありません。

平成16年1月30日

日清製粉グループ 第3四半期連結決算

第3四半期までの経常利益は176億64百万円と順調に推移。通期業績予想も公表予想通りで売上高、経常利益とも過去最高を更新の見込み。

株式会社日清製粉グループ本社（社長 正田 修）の平成16年3月期第3四半期までの業績は、主力の製粉事業、食品事業をはじめ各事業において、新技術の導入による新製品の投入、商品力・提案力の更なる強化を図るなどマーケットニーズを的確にとらえて拡販を着実に進め、売上高は3,342億76百万円、経常利益は176億64百万円と順調に推移しました。

中でも健康食品事業においては、コエンザイムQ₁₀の国内健康食品市場での拡販に注力すると共に、素材販売においては水溶性タイプなど新用途の開拓を図り、末端製品販売においては新製品を開発・投入した結果、順調に出荷伸張し、収益向上に寄与しました。また、ペットフード事業においても、効果的な販売促進やターゲットを明確にした営業活動を更に推進し、ミックスタイプを中心とした猫用ドライ製品が大きく出荷伸張し、業績は好調に推移しました。

尚、昨年10月1日に日清飼料(株)は丸紅飼料(株)との経営統合に伴い、日清丸紅飼料(株)として当社の持分法適用関連会社となりました。畜産用飼料・水産用飼料ともに商系トップシェア企業として、コスト面・販売面・品質管理体制などあらゆる面での競争優位の確立を目指し、出荷、業績とも順調に推移しております。

通期業績予想は、公表予想通り各事業において出荷伸張を図るとともに、引き続き各事業におけるコストダウンを実現すること等で、売上高は4,340億円（前期差+317億円、前期比+7.9%）、経常利益は222億円（前期差+23億円、前期比+11.4%）と過去最高を更新し、当期純利益も112億円（前期差+6億円、前期比+5.9%）と増益となる見込みです。

以 上